



長野県総合教育センター通信

# しののめ

2017/09/11  
(平成29年09月号)  
第101号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802 FAX (0263)51-1290 E-mail : [kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp](mailto:kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp)

## 目次

チャレンジしののめ塾ご来場ありがとうございました・・・	1
学力を高める授業のポイント⑨（生活科編）・・・	2
研修講座の様子・・・	4



ご来場ありがとうございました！！



今年も県内各地から多数の皆様にご来場いただきました。



15を超えるコーナーや講座を体験いただきました。



# 学力を高める授業のポイント⑨

## 生活科 編



トモニ先生

生活科の授業では、子どもたちはとても楽しそうに活動しています。でも時々、どんな力がついたのかと不安になることがあるんです。「活動あって学びなし」なんて言葉を聞くこともありますから……。どう評価したらいいのかな。



つなぐ先生

生活科で大切にしたいことはどのようなことですか？

生活科の目標には、「具体的な活動や体験を通して」と書かれています。だから、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの直接対象に働きかける主体的な学習活動や、言葉、絵、動作、劇化などの方法によって体験を表現する学習活動を大切にしています。



それと、学年の目標の中に「気付き」という言葉が多く使われています。「気付きの質を高める」ということも大切だと思います。



ミガコ先生



そうですね。低学年の子どもには、具体的な活動を通して思考するという発達上の特徴があります。子どもたちは試行錯誤したり、繰り返したりしながら、対象に何度もかかわり、体全体で感じ、考え、学びを深めます。このような姿を支援することがとても大切です。

子どもの活動を評価するために意識したいのは、「気付き」です。活動を通して思考し、色々なことに気付く子どもたちですが、活動を進める中で気付きは消えてしまったり、自分の気付きのよさを自覚できなかったりするケースがあります。したがって、まず、気付きを表現し、自覚させることが大切です。その上で、お互いの気付きを発表したり交換したりして、様々な気付きを関連付ける「関連付けられた気付き」や、自己の変化や成長に対する「自分自身への気付き」へと発展させることが大切になってきます。「気付き」に注目すると、子どもの活動が評価できます。

でも、具体的にどうやったら「気付き」をとらえることができるのでしょうか。



まず、「自覚された気付き」が生まれるように、

- ・ 子どもたちが主体的にかかわることができる環境を構成すること
- ・ 子どもの表情や活動の変化から「気付き」をとらえ、自分の「気付き」を自覚することができるように言葉がけをしたり、環境を構成したりすること



が最低限必要です。その上で、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な活動ができるようにしましょう。比較したり、分類したり、関連付けたりして考えることや、自らの「気付き」を振り返り、互いの「気付き」を交流するような活動が生まれる環境を構成することも重要です。

どうして「環境を構成する」ことが大事なんですか？



生活科の中で、子どもたちは人やもの、こと等の身近な環境とのかかわりを通して学んでいきます。「気付き」は主体的な活動の中で生まれるものです。決して指示されて生まれるようなものではありません。子どもたちがものやことに魅力を感じ、もっとこうしたいという願いをもって対象とかかわる活動を進めていく中で初めて生まれるものです。ですから教師は、どのような場所に、どのような素材や道具を用意したら、子どもたちがどのように活動を始め、どのように人やものとかかわり、どのような「気付き」が生まれてくるのかを考えて、環境を意図的に構成することが必要です。



その中で、表現活動は自分の「気付き」を振り返って自覚したり、友の「気付き」と比較、分類、関連付けたりするためにとっても有効な活動なのでぜひ取り入れてほしいです。ただ、表現の出来栄のみで評価をしないことが大切です。そこに至るまでの一人ひとりの子どもの思考や「気付き」を見取って評価していくと、私たち教師自身にも、驚いたり、感心したり、納得したりする一人ひとりの子どもへの「気付き」が生まれますよ！



## 研修講座の様子

### 個と集団を共に育む学級づくり～よりよい人間関係を築く特別活動～ (6月13日)

この講座は以下のねらいで開講され、36名の先生方が受講しました。

- ・講義を通して、個と集団の関係性を基にした学級づくりのあり方について理解する
- ・演習を通して、明日からの学級づくりについて考え、実践への見通しをもつ
- ・実際の学級経営案を基にした研究協議を通して、学級づくりの工夫や課題を共有するとともに互いの工夫について学びあう

＜講座の主な内容＞

講義・演習「社会参画・人間関係形成・自己実現の力を育てる特別活動」

國學院大學人間開発学部 教授 杉田 洋 先生

研究協議「学級づくりにおける工夫と課題」

総合教育センター 主任指導主事 新井 仁

#### ◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・自分と今のクラスを見直すよい機会となった。気持ちを新たに生徒と関わりたい。
- ・違いや多様性を越えて、共に生きていける子どもの育成に携わっていきたい。
- ・他の3人の先生方と悩みや陥りやすいことについて話し合え、私も頑張っていきたいと思いました。
- ・杉田先生に出会えた子どもたちは幸せだと思います。(中略)子どものためがんばれる自分でありたいです。



杉田先生のご講義をはじめ、校種を越え幅広く示唆を得られる内容でした。



国立教育政策研究所の資料は<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouairyuu.html>からDL戴けます。

### RESASを活用した探究型信州学～統計データから地域の今と未来を見つめる～ (6月24日)

この講座は以下のねらいで開講され、25名の先生方が受講しました。

- ・地域経済分析システム (RESAS) から地域の現状や課題を把握し、解決に向けて情報を活用する能力を習得する
- ・RESASの活用から分析・考察・提案までのプロセスを体験し、信州学の実践について考える
- ・地方創生の観点から、地域課題を抽出して、解決に向けた探究的な学習について考える

＜講座の主な内容＞

講義「統計データを使った地域分析」 実習「RESASの基本操作と活用のポイント」

講義「探究的な学びの授業実践について」 実習「RESASを活用した探究的な学びの体験」

金沢大学 国際基幹教育院 専任講師 松浦 義昭 先生

研究協議「信州学における探究的な学び」

総合教育センター 専門主事 高橋 幸久

#### ◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・RESASの特徴や使い方を知ることができました。今後教材としての活用方法を研究していきたいと思います。
- ・課題研究の活動に大いに役立つと感じた。
- ・実際に分析してみると非常にRESASは便利なものだと思います。
- ・今後も信州学に関する講座を開講していただきたい。
- ・個人の視点からグループの視点に変わることによって深い学びに通じると感じました。



「探究的な学習」につながる密度の高い講座となりました。



本年度内の追加募集の受け付けは9月末日を以てすべて終了します。お申し込みはお早めをお願いします。